

第2章：西新宿の地で 東京医科大学病院創立 90周年

東京医科大学病院（以下、大学病院）は、今年5月、西新宿の地で創立90周年になります。大学病院の起源となる東京医学専門学校附属博済病院から数えると103年の長い歴史を有しています。この章では、大学病院に焦点を当てて、その歩みを紹介いたします。

■起源は103年前の附属博済病院

本学は、大正5（1916）年に東京医学講習所を開設しました。臨床実習病院として外科系は順天堂医院（院長 佐藤進順天堂第三代堂主、本学初代顧問）、内科系は麹町（東京都千代田区）にあった中濱東一郎氏（ジョン万次郎の長男、本学内科学教授、初代顧問）経営の回生病院で行いました。その後、回生病院を買収して東大久保（現新宿キャンパス）の地に移築し、附属病院となり、東京医学専門学校の設置が認可された大正7（1918）年4月11日、佐藤進氏によって博済病院と命名されました。病院長は東京医学専門学校初代校長の佐藤達次郎氏（後に順天堂第四代堂主、順天堂大学初代学長・理事長）が就任し、大正13（1924）年には附属博済病院本館が完成しました。

大正7（1918）年に政府が大学令を公布して私立大学の設置を認めたことにより、学内に大学昇格運動が起こり、その準備の一つとして昭和2（1927）年に戸山脳病院（新宿区若松町）を買収しました。ようやく学校の形が整ったのも束の間、昭和3（1928）年、附属博済病院の入院病棟が全部焼失し、翌年には戸山脳病院も全焼しました。



大正7（1918）年 附属博済病院外来棟



昭和2（1927）年 戸山脳病院

■90年前、西新宿の地に附属淀橋診療所を開設

その後、火災により焼失した附属病院に替わる建物を速やかに取得する必要があったものの、東大久保の土地は学校の諸教室で大半を占め、附属病院を置くには狭くそれ以上の発展の余地がないとして、学校に近い土地に移転することが復興計画の最大目標となりました。

昭和5（1930）年10月に淀橋町柏木（現西新宿）の土地を購入して、翌昭和6（1931）年5月11日、附属淀橋診療所を開設しました。昭和7（1932）年11月には附属博済病院を廃止合併して附属淀橋病院となり、病院長に清水茂松氏（小児科学教授、第二代学長）が就任しました。

昭和19（1944）年9月には世田谷区松原に附属淀橋病院松原分院を開設しましたが、翌年5月空襲で焼失しました。



昭和6（1931）年 附属淀橋診療所開設



昭和7（1932）年 附属淀橋病院に改称

■戦火の中でも診療を続け、教職員と学生が附属淀橋病院を守り抜く

昭和20（1945）年に入ると太平洋戦争の戦雲は苛烈を極め、米軍B29がたびたび東京を襲撃し、新宿は焼夷弾により焦土と化しました。附属淀橋病院は、連日の空襲下にもかかわらず従来通り診療を継続し、教職員と学生が献身的な消火活動を行い、奇跡的に附属淀橋病院を守り抜きました。また、学校（現第一校舎）も同様に、教職員と学生の手により奇跡的に生き残りました。



昭和9（1934）年 附属淀橋病院病棟



昭和12（1937）年 附属淀橋病院外来本館

■東京医科大学病院に改称し、学園経営の積極化を推進

昭和 21 (1946) 年 5 月 15 日、東京医科大学の設立認可と共に、附属淀橋病院は東京医科大学病院に改称しました。初代学長となった緒方知三郎氏は、大学の名にふさわしい設備の充実と一流の私立医科大学の理想現実のために、学園経営の積極化を推進し、学校敷地及び病院隣接敷地の購入に全力が注がれました。さらに、茨城県阿見町、静岡県熱海市来の宮の土地を購入するなど、次代の本学発展のために敷地を確保していきました。西新宿の病院の土地も当初の 2,264 坪から 3 倍以上に拡大しました。

大学病院は、昭和 36 (1961) 年に南病棟 (380 床) が完成し、1,000 床を超える全国屈指の大病院になりました。平成 5 (1993) 年には厚生労働省から特定機能病院として承認されました。



昭和 36 (1961) 年 南病棟完成 淀橋浄水場 (現新宿住友ビル) より
病床数 1,000 床を超える



昭和 60 (1985) 年 リニューアル

■新大学病院に生まれ変わる

創立 100 周年記念事業として、大学病院は、令和元 (2019) 年 7 月 1 日、Neat (上品・端正・洗練) & Clean (清潔・純粹・高潔) のコンセプトのもと、高品質で快適なハード・ソフトウェアを完備した新病院として生まれ変わりました。「満足いただける医療」をテーマに、患者さんとの信頼関係構築を基本に全職員が力を合わせ、病院の理念である「患者さんとともに歩む良質な医療」に取り組んでいます。

地上 20 階、地下 2 階、高さ 88.3m、延床面積 98,000 m²、病床数 904 床。職員数 3,300 名 (令和 3 (2021) 年 4 月 1 日現在)。



令和元 (2019) 年 青梅街道側



令和 3 (2021) 年 東京都庁側

■附属施設：東京医科大学上高地診療所 (日本初の山岳診療所)



令和 3 (2021) 年 現在

昭和 2 (1927) 年、日本初の山岳診療所として、長野県松本市の上高地に東京医学専門学校山岳会高山医学研究所附属診療所を開設し、この地を訪れる登山者や観光客、地元住民の診療奉仕にあたっています。昭和 32 (1957) 年に東京医科大学上高地診療所に改称し、平成 23 (2011) 年から大学病院の附属施設になりました。診療所は、上高地バスターミナルに隣接しています。